

提案
8

提案
9

提案
10

提案
11

センザンコウ

提案
12



©David Brossard / Creative Commons

提案: 附属書 II から附属書 I へ移行

提案国（アジアのセンザンコウ）：

バングラデシュ(8)、インド(9)、ネパール(9)、スリランカ(9)、フィリピン(10)、ベトナム(11)、米国(9,10,11)

提案国（アフリカのセンザンコウ）：

アンゴラ、ボツワナ、チャド、コートジボワール、ガボン、ギニア、ケニア、リベリア、ナイジェリア、セネガル、南アフリカ、トーゴ、米国（すべて12）

利用：食用としての肉、伝統薬利用としてウロコ、一部皮革製品需要として皮、用途は様々。

背景：生息状況の情報が少ないのが現状ですが、どの種も密猟による脅威にさらされていることが明らかとなっています。特異な食性と未解明な生態、免疫力が低いなど飼育が困難なため野生の種への捕獲圧がとて高く、繁殖率が低いことや生息地の減少も加わり附属書 I への掲載は妥当だと考えられます。アフリカの種は、近年アジアの種の減少に伴い違法捕獲・取引が急増しています。

日本の関わり：輸入の実績があります。

（過去には皮、近年は生体）

トラフィックの見解: 提案を支持しています

提案
8

インドセンザンコウ *Manis crassicaudata*

提案
9

インドセンザンコウ *Manis crassicaudata*

提案
10

マニス・クリオネンシス *Manis culionensis*

提案
11

マライセザンコウ *Manis javanica*

コミミセンザンコウ *Manis pentadactyla*

提案
12

オオセンザンコウ *Manis gigantea*

サバンナセンザンコウ *Manis temminckii*

オナガセンザンコウ *Manis tetradactyla*

シロハラセンゼンコウ *Manis tricuspis*

提案
14-16

提案
17

提案
21-24

日本に関わりの深い動物



©Martin Harvey / WWF

アフリカゾウ *Loxodonta africana*

そのほか、施行に関わる決議10.10の改正や新しい決議の提案が出されています。

提案
17

附属書 I から附属書 II へ移行

提案国はカナダですが、日本にも生息している種です。



©Chris Martin / WWF

ハヤブサ *Falco peregrinus*

提案
14

ナミビアに関する注釈の削除

提案
15

ジンバブエに関する注釈の削除

提案
16

附属書 II の個体群を附属書 I へ移行

ハヤブサは日本が生息国で、アフリカゾウは象牙の利用、ワニは皮革製品用として皮の利用をしている消費国です。この他にもペットとしての利用（鳥や爬虫類）など、日本に関わりのある種が提案に上がっています。



©Fritz Pölking / WWF

提案
21

アメリカワニ *Crocodylus acutus*

提案
22

モレレットワニ *Crocodylus moreletii*

提案
23

ナイルワニ *Crocodylus niloticus*

提案
24

イリエワニ *Crocodylus porosus*

コロンビアの一部個体群附属書 II へ移行
+
注釈の変更

注釈の変更

マダガスカルの一部個体群に関する注釈の変更

マレーシアの一部個体群附属書 II へ移行
+
注釈の変更